

世界自然遺産登録5周年
国立公園指定10周年記念

奄美・沖縄
子ども交流事業

子ども新聞

学び、深めた郷土愛

特別号



ピナイサーラの滝
ツアー



野生生物保護センターでの
環境学習



祖納集落 豊年祭へ参加



西表島小中学生との交流会



ナイトツアーで
夜の生き物観察



水牛車に乗り由布島へ

令和8年7月28日から31日までの4日間、奄美群島の中学生12名が西表島を訪れ、交流事業を実施しました。野生生物保護センターでの環境学習をはじめ、ピナイサーラの滝ツアーやナイトツアーなど、豊かな自然を体感するさまざまなエコツアーを体験。また、西表島の小中学生との交流会では、一緒に活動しながら交流を深めました。

奄美群島の中学生は、研修前に自分が住んでいる島と西表島の違いについて事前に学び、研修に臨みました。実際に西表島を訪れると、自然や文化の中に「違い」だけでなく、島同士の「共通点」もたくさん見つかりました。見て、聞いて、触れて、話して——。4日間の体験を通して、子どもたちは西表島の魅力を発見するとともに、自分たちが暮らす島の魅力も改めて見つめ直しました。

「充実した4日間」

奄美市立金久中学校
3年 直田 夕輝

① 心に残ったこと

一番心に残ったことは、「ピナイサーラの滝ツアー」です。ピナイサーラの滝は、沖縄では珍しい、落差 55m の大きな細い滝であり、落差は沖縄県で最も大きい滝です。滝ツアーでは、カヌーを体験したり、オヒルギとヤエヤマヒルギを主体とするマングローブを中心に、いろいろな植物を観察することができます。遊歩道は、屋久島の白谷雲水峡を想像させるような過酷なトレッキング道で、とてもきつかったのですが、たどり着いた先の景色は、これまでの疲れを忘れさせるような絶景が待っていて、とても圧巻な景色でした。

③ 自分の成長につながったこと

豊年祭への参加や、ピナイサーラの滝ツアー、ナイトツアーなどの体験を通して、多角的な視野と主体的な観察力を養うことができました。豊年祭では、自然への感謝と地域コミュニティの絆を感じ、文化や歴史を人々の暮らしと結びつけて深く理解する重要性を学びました。また、ピナイサーラの滝ツアーでは、圧倒的な自然を五感で体感し、現場で自ら確かめる「1次情報」の価値を再認識しました。自然と人間の営みを切り離さず、背景まで捉えて考える視点を得たことが大きな成長であることを実感しています。今後はこの経験を活かし、表面的ではない本質的な課題に自ら問いを立てて取り組んでみたいです。

② 学んだこと・気づいたこと

僕は、両方の島の違いについて学びました。まず、奄美大島は、アマミノクロウサギや、ケナガネズミなどが見られますが、西表島では、イリオモテヤマネコや、ヤエヤマセマルハコガメなど、比較的距離の近い島同士でも、全く違う生態系が見られます。これらの要因は、「環境の違い」です。奄美大島は、琉球列島の中でもかなり早い段階で切り離され、完全に独立しましたが、西表島は氷河期の終了後も大陸や周辺の島々と一時的に繋がっていた時期があったため、このような違いが生まれたと考えます。他にも奄美大島には肉食獣がいませんが、西表島には生息していることも関係があったと思います。

④ これから、自分にできること

与えられた情報や既存の理論を表面的に受け取るのではなく、現場での観察などを通して、「自ら問いを立てる」主体的な探究姿勢を貫きたいです。今回の研修で培った、環境問題と人間社会の営みを統合的に捉える視点を活かし、対象の背景にある歴史や文化的構造にまで目を向けた深い考察を目指したいです。単なる知識の獲得にとどめず、得られた知見を社会へどう還元できるかという実践的な問いを持ち続け、多角的なデータ分析と現場でのフィールドワークを組み合わせた質の高い探究活動を展開し、身近な地域の環境や、文化の保全に主体的に取り組めるようになりたいと考えています。



ナイトツアーでヤシガニを見ることができた



国の天然記念物のヤエヤマセマルハコガメ



由布島で記念撮影